

日本リスクマネジメント学会

第47回全国大会開催

「With/After」コロナのRM」で論議

日本リスクマネジメント学会は9月23日と24日、宮城県仙台市で第47回全国大会を開催した。東京エレクトロンホール宮城で行われた1日目は研究会と理事会で、自由論題の報告の他、「With/After」コロナのリスクマネジメント」を統一論題に報告や講演、ディスカッションが行われた。当日は会場とZoomとのハイブリッド開催で合わせて89名の参加があった。また、2日目は被災地バスツアーが行われた。

1日目は、開会の辞を上田和勇理事長(専修大学名誉教授)、歓迎の言葉を菅原好秀実行委員長(東北福祉大学)が務めた。なお、Zoomハイブリッド開催の運営指揮は、渡邊圭氏(東北学院大学)が担った。

会場には、港製器工業(株)(大阪府高槻市)のフロック塀に代替する木の塀、(有)オイカワデニム(宮城県気仙沼市)の製品が展示された。ポスターセッションは、

会場の様子



歓迎の言葉を述べる菅原氏



会場の展示を熱心に見つめる参加者

トフルと日本の製鋼業のイノベーション戦略」について発表した。第2報告は林昭信氏(関西大学大学院)が「中小企業の事業承継に対する新たなリスクファイナンス」について、第3報告は神山典子氏(放送大学大学院)が「マンシヨ管理をめぐるリスクと監査に関する考察」について発表。第4報告では久保俊一郎氏(東洋大学大学院)が「中小企業のBCP策定促進に係る課題の考察」と題して発表した。

その後、第5報告として石井至氏(石井兄弟社)が「自治体の介護給付費の削減とリスク」について、第6報告として

その外食産業の人財リスクマネジメント」について発表。報告2としては千田忠氏と平沢保人氏(ダイヤモンド・プリンセス)

会場では展示やポスターセッションも

木良太理事(流通経済大学)が務め、冒頭に日本リスクマネジメント学会優秀著作賞と文学賞の授与式が行われた。今年度優秀著作賞は、大森勉氏(リスクLab.)の「経営戦略リスクマネジメント」(ミネルヴァ書房、2021年)が受賞。文学賞は亀井克之氏(関西大学)の「フランシメント」(ミネルヴァ書房、2022年)が受賞した。

次に、統一論題「With/After」コロナのリスクマネジメント」のセッションが行われ、コーディネーターを上田和勇理事長が務めた。統一論題報告1として山川雅行氏(大阪観光大学)が「With/After」コロナ時代における

号の集団感染事故検証を求める全国連絡会)が「ダイヤモンドプリンセス号集団感染事故の検証」と題して発表。報告3では、高田真也氏(早稲田大学)が「事業リスクの認知と形成プロセス」について発表。報告4では、高田真也氏(早稲田大学)が「事業リスクの認知と形成プロセス」について発表。報告5では、高田真也氏(早稲田大学)が「事業リスクの認知と形成プロセス」について発表。



パネルディスカッションの様子



ハイブリッド開催で盛会となった

閉会の辞は江尻行男氏(東北福祉大学名誉教授)が述べた。東北福祉大学による大会は4回目だった。

翌日行われた被災地バスツアーでは、まず震災遺構・仙台市立荒浜小学校を見学。その後、閉上地区に入り、かわまちテラス、名取市震災復興伝承館、名取市震災メモリアル公園を巡った。

閉会の辞は江尻行男氏(東北福祉大学名誉教授)が述べた。東北福祉大学による大会は4回目だった。

翌日行われた被災地バスツアーでは、まず震災遺構・仙台市立荒浜小学校を見学。その後、閉上地区に入り、かわまちテラス、名取市震災復興伝承館、名取市震災メモリアル公園を巡った。